平成22年度　農林水産省農林認定品種一覧

作物名	認定番号	品種名	申請機関（主となる育成機関）	主要特性
水稲	水稲農林439号	げんきまる	宮城県古川農業試験場	大豆転作跡地等の地力の高い土壌条件で多収、耐倒伏性が強い。米粉、加工用米等に適する。
小麦	小麦農林173号	東海103号	愛知県農業総合試験場	製めん適性に優れ、早生で多収、耐湿性にやや優れる。
皮麦	皮麦農林39号	カシマゴール	独立行政法人　農業・食品産業技術総合研究機構　作物研究所	麦茶適性を有し、早生で多収、オオムギ縞萎縮病に抵抗性で、成熟期以降の中折れが発生しにくい。
ばれいしょ	ばれいしょ農林62号	コナユキ	地方独立行政法人　北海道立総合研究機構　農業研究本部　北見農業試験場	でん粉品質に優れ、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有する。
ばれいしょ	ばれいしょ農林63号	さんじゅう丸	長崎県農林技術開発センター	そうか病に中程度の抵抗性を持ち、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性で、大いも多収、外観が良い。
だいず	だいず農林140号	ユキホマレR	地方独立行政法人　北海道立総合研究機構　農業研究本部　十勝農業試験場	「ユキホマレ」にダイズシストセンチュウレース1抵抗性を導入した品種。
だいず	だいず農林141号	シュウレイ	長野県野菜花き試験場	大粒で、しわ粒の発生が少なく、蛋白質含有率が高く、外観品質に優れる。ダイズモザイク病と紫斑病に強く、耐倒伏性も強い。
あずき	あずき農林18号	きたあすか	地方独立行政法人　北海道立総合研究機構　農業研究本部　十勝農業試験場	多収で、粒大が大きく、普通小豆流通規格内の歩留まりが高く、茎疫病などに抵抗性を有する。
サトウキビ	さとうきび農林28号	Ni28	沖縄県農業研究センター	南大東島における株出し栽培の収量が多く、早熟で甘蔗糖度が高い。また、黒穂病の抵抗性が極めて強く、風折抵抗性が強い。
サトウキビ	さとうきび農林29号	Ni29	沖縄県農業研究センター	南大東島における夏植えの早期収穫とその株出しの早期収穫における収量と甘蔗糖度が高く、可製糖量が多い。
茶	茶農林55号	さえあかり	独立行政法人　農業・食品産業技術総合研究機構　野菜茶業研究所	一番茶および夏茶の品質が優れ、炭疽病と輪斑病に抵抗性を有する。

とうがらし	とうがらし農林台4号	台パワー	独立行政法人　農業・食品産業技術総合研究機構　野菜茶業研究所	疫病、青枯病およびPMMoV$_{(P1.2)}$に安定した強度の複合抵抗性を有する。
うめ	うめ農林3号	露茜	独立行政法人　農業・食品産業技術総合研究機構　果樹研究所	ニホンスモモとウメの雑種で、果実重は平均57g程度の大果である。果皮および果肉が鮮紅色に着色し、梅酒や梅ジュース加工品はきれいな紅色になる。
カーネーション	カーネーション農林3号	花恋ルージュ	独立行政法人　農業・食品産業技術総合研究機構　花き研究所	安定した強い萎凋細菌抵抗性を有する。
ペレニアルライグラス	ペレニアルライグラス農林8号	ヤツユメ	山梨県酪農試験場	短草・多回刈条件で収量性に優れ、放牧として利用可能で、越夏性に優れる。
アカクローバ	アカクローバ農林6号	北海13号	独立行政法人　農業・食品産業技術総合研究機構　北海道農業研究センター	永続性が高く、4、5年目でも収量を維持できる。
とうもろこし	とうもろこし農林交68号	タカネフドウ	長野県野菜花き試験場	ごま葉枯れ病およびすす紋病に強い抵抗性を有し、倒伏に強い。

（お問い合わせ先）
農林水産技術会議事務局研究推進課
担当者：平江、柳田
代表：03-3502-8111（内線5892）
ダイヤルイン：03-3502-7462

水稲農林４３９号「げんきまる」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関
宮城県古川農業試験場
　作物育種部（指定試験地）

２．来歴
育成期間：平成 12 年～ 21 年　（10 年間）

交 配 親：北陸 188 号×まなむすめ
旧系統名：東北 189 号

３．主要特性
・大豆転作跡地等の地力の高い土壌条件で多収である。
・耐倒伏性が「まなむすめ」より強い。
・米粉，加工用米，業務用米に適する。

４．特性概要
（１）生育特性
・出穂・成熟期は「まなむすめ」よりやや遅い“中生の晩”。
・草型は“中間型”で，耐倒伏性は“強”。
・収量性は多肥条件で多収。
・障害型耐冷性は“極強～強”、穂発芽性は“難”。
・いもち病真性抵抗性遺伝子型は“*Pib*”と推定され，圃場抵抗性は不明。
・玄米千粒重は「まなむすめ」並かやや大きい。

（２）品質特性
・玄米の外観品質は“上中”。
・白米のﾀﾝﾊﾟｸ含有率は「まなむすめ」より低く，ｱﾐﾛｰｽ含有率は高い。
・食味は、「まなむすめ」に近い良食味。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：東北中南部の平坦地域
普及見込み：宮城県で奨励品種に採用
　　（普及見込み面積　1,000ha）

６．品種登録出願状況
平成 22 年 11 月 8 日　出願

７．予算区分
指定試験事業
「寒冷地中部向け、極良食味、耐冷性、いもち病抵抗性の水稲品種の育成」

系譜図

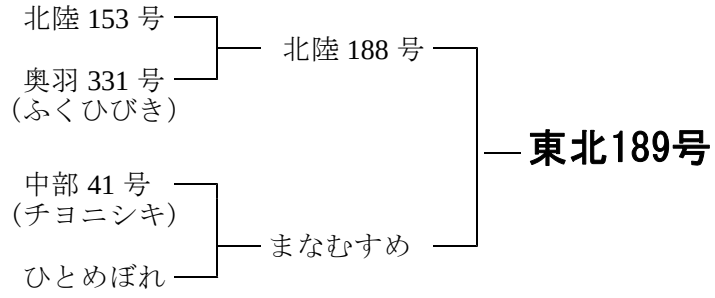


表１　生育特性
（育成地　2003 ～ 2009 年）

品種名又は系統名	出穂期（月日）	成熟期（月日）	稈長（cm）	穂長（cm）	穂数（本/m²）	精玄米重（kg/a）	玄米千粒重（g）
東北189号	8.13	9.28	93	19.8	411	70.9	22.8
まなむすめ	8.10	9.24	87	19.6	460	65.7	22.5

品種名又は系統名	耐倒伏性	穂発芽性	耐冷性	病害抵抗性 いもち真性	葉いもち	穂いもち	白葉枯病	縞葉枯病
東北189号	強	難	極強～強	pib	-	-	やや弱	罹病性
まなむすめ	やや強	難	極強～強	pii	中	強	やや弱	罹病性

表２　品質特性
（育成地　2005 ～ 2009 年）

品種名又は系統名	玄米品質（下下～上上）	食味（下下～上上）	アミロース含有率（%）	タンパク質含有率（%）
東北189号	上中	上下	19.5	6.0
まなむすめ	上中	上下	18.6	6.5

草　　姿

（左から「東北 189 号」、「まなむすめ」，「ひとめぼれ」）

立毛草姿

左から「東北 189 号」、「まなむすめ」）

籾および玄米

（左から「東北 189 号」、「まなむすめ」，「ひとめぼれ」）

小麦農林１７３号「東海１０３号」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関
愛知県農業総合試験場作物研究部
小麦育種指定試験地

２．来歴
育成期間：平成１２年～２０年（９年間）
交 配 親：きぬの波×西海１８４号
旧系統名：愛系０５－１６

３．主要特性
・「イワイノダイチ」に比べ収量が 20 %程度多い。
・「イワイノダイチ」に比べ外観品質が優れる。
・「イワイノダイチ」に比べゆでめんの食感（硬さ、粘弾性、滑らかさ）が優れる。
・主な用途は日本めん用である。

４．特性概要
（１）生育特性
・出穂期、成熟期は、「イワイノダイチ」より１日～２日程度遅い。
・稈長は「イワイノダイチ」より２～３ cm 短く、強稈で耐倒伏性が優れる。
・収量は「イワイノダイチ」より 20 %程度多収である。

（２）品質特性
・外観品質は「イワイノダイチ」より優れる。
・ゆでめんの色が優れる。
・ゆでめんの食感（硬さ、粘弾性、滑らかさ）が優れる。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：温暖地西部
普及見込み：愛知県で奨励品種に採用（平成２２年８月２５日）
（普及見込み面積　２，０００ ha）

６．品種登録出願状況
平成２１年　９月　３日　出願
平成２１年１１月３０日　出願公表

７．予算区分
農林水産省指定試験事業
（温暖地西部の多湿水田輪換畑向け早生、良質の小麦品種の育成）

系譜図

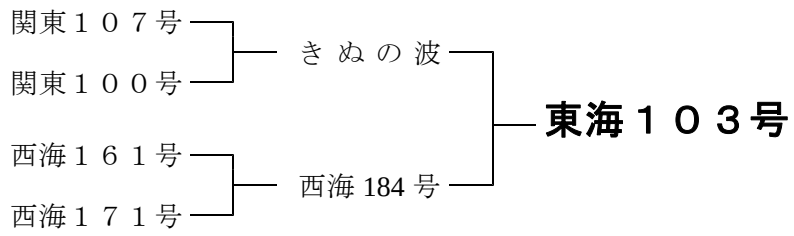


表１　生育特性（愛知県農業総合試験場、2006 ～ 2009 年度播種）

播種様式		出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏	精子実重	同左対対照比率	容積重	千粒重	外観品質	蛋白質含量
		(月.日)	(月.日)	(cm)	(cm)	(本/㎡)	0-5	(kg/a)	(%)	(g/L)	(g)	1-6	(%)
慣行条播	東海103号	4.11	6.03	80	9.2	417	0.3	45.4	118	845	41.4	1.7	8.0
	(対照)イワイノダイチ	4.09	6.02	83	9.3	406	0.5	38.6	100	849	42.0	2.7	8.5
	(参考)農林61号	4.14	6.06	94	8.4	417	1.4	37.8	98	849	40.1	1.8	8.8
ドリル播	東海103号	4.11	6.02	77	9.5	445	0.2	49.5	118	840	41.9	1.6	7.7
	(対照)イワイノダイチ	4.09	6.01	79	9.3	466	0.4	41.8	100	838	41.8	2.4	7.7
	(参考)農林61号	4.15	6.05	93	8.5	459	1.4	42.4	102	843	40.4	1.7	8.4

注1　試験は2006～2009年度播種。播種期の平均は11月18日。
注2　播種様式の慣行条播は畦幅60cm・条間40cm・播幅20cm。ドリル播は条間25cm。
注3　倒伏は、0:無、1:微、2:少、3:中、4:多、5:甚。
注4　外観品質は、1:上の上、2:上の下、3:中の上、4:中の中、5:中の下、6:下
注5　蛋白質含量は、近赤外分光光度計による。水分13.5%換算。窒素-蛋白質含量換算係数は5.83。

表２　品質特性（愛知県農業総合試験場、2005 ～ 2008 年度播種）

生産ほ場	品種名	色	外観	食感 硬さ	食感 粘弾性	食感 滑らかさ	食味	合計
		20点	15点	10点	25点	15点	15点	100点
場内	東海103号	15.9	11.2	7.1	19.4	11.8	10.9	76.2
	農林61号(基準)	14.0	10.5	7.0	17.5	10.5	10.5	70.0
	イワイノダイチ	15.1	10.3	6.5	19.0	11.5	10.7	72.9
現地	東海103号	14.9	10.4	6.9	20.2	12.0	10.7	75.0
	農林61号	12.7	10.2	6.9	17.4	10.3	10.5	67.9
	イワイノダイチ	15.0	9.9	6.5	19.0	11.8	10.6	72.7
	群馬県産農林61号(基準)	14.0	10.5	7.0	17.5	10.5	10.5	70.0

注1　場内ほ場試験は、2005～2007年度播種で、3回行った官能試験の平均値。場内産農林61号を基準にして採点。愛知県製粉協会技術者と愛知県農業総合試験場研究員が合同で評価した。

注2　現地ほ場試験は、2007～2008年度播種で、2回行った官能試験の平均値。群馬県産農林61号を基準にして採点。JAあいち中央管内ほ場の生産物を中部製粉工業協同組合が分析・評価した。

草　　姿

（左：「東海１０３号」、中央：「農林６１号」、右：「イワイノダイチ」）

穂

（左：「東海１０３号」、中央：「農林６１号」、右：「イワイノダイチ」）

子実

（左：「東海１０３号」、中央：「農林６１号」、右：「イワイノダイチ」）

皮麦農林３９号「カシマゴール」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
作物研究所　大麦研究関東サブチーム

２．来歴

育成期間：平成 9 年～ 21 年　（13 年間）
交 配 親：関東皮 78 号（後のさやかぜ）×関東裸 77 号
旧系統名：関東皮 86 号

３．主要特性

・早生で穂数が多く、多収である。
・オオムギ縞萎縮病（Ⅰ～Ⅲ型ウイルス）に抵抗性である。
・成熟以降の稈の中折れが発生しにくい。
・麦茶用品種育成の到達点（ゴール）となることを願うとともに、カシマムギを一蹴するくらいの普及に期待を込めて命名した。

４．特性概要

（１）生育特性

・出穂期・成熟期は「カシマムギ」並みの“早”である。
・稈長・穂長は“やや短”で「カシマムギ」と同程度である。
・「カシマムギ」より穂数が多く、収量性が“多”で優れる。
・耐倒伏性は“やや強”で「カシマムギ」より優れ、成熟以降の中折れが発生しにくい。
・オオムギ縞萎縮病に“極強”で、うどんこ病に対しても“強”である。

（２）品質特性

・容積重は「カシマムギ」と同等の“中”であるが、やや重い。
・粒大は・千粒重は“やや小”で「カシマムギ」よりやや小さく軽い。
・麦茶加工・品質ともに「カシマムギ」とほぼ同程度の適性を有する。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：関東から東海地域の平坦地
普及見込み：茨城県で準奨励品種に採用
（普及見込み面積　1,300ha）

６．品種登録出願状況

平成 22 年 9 月 22 日　出願（出願番号　第 25218 号）
平成 22 年 11 月 24 日　出願公表

７．予算区分

［運営費交付金］311-d ：大麦・はだか麦の需要拡大のための用途別加工適正に優れた品種の育成と有用系統の開発

系譜図

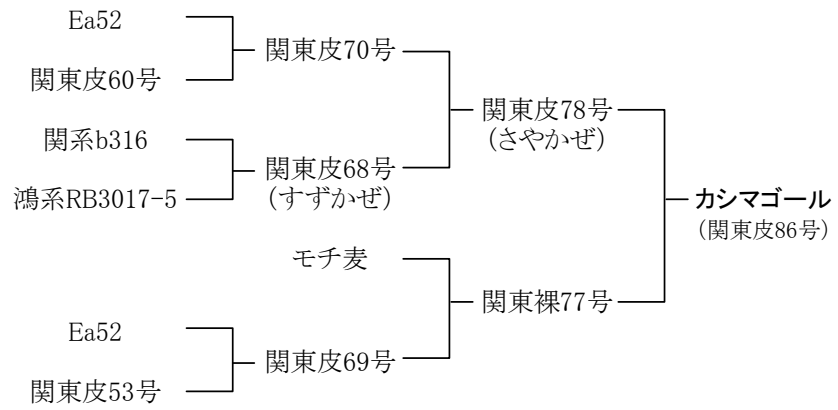


表１　生育特性

（育成地　平成16～21年度）

品種名	出穂期（月.日）	成熟期（月.日）	稈長（cm）	穂長（cm）	穂数（本/m^2）	収量（kg/a）	縞萎縮病抵抗	うどんこ病抵抗性	耐倒伏性	中折れ性	穂発芽性
カシマゴール	4.11	5.26	90	4.7	765	73.6	極強	強	やや強	難	極難
カシマムギ	4.12	5.26	88	4.9	638	67.4	弱	やや強	中	やや易	極難

注）畑ドリル播標肥栽培および特性検定試験成績による。

表２　品質特性

（育成地　平成16～21年度）

品種名	整粒歩合 >2.0mm（%）	容積重（g/L）	千粒重（g）	ふ色	粒大	条溝の幅	原麦粒の見かけの品質	麦茶品質 原麦蛋白質含有率（%）	膨化程度（ml）	麦茶液色	味・香り	総合評価
カシマゴール	93.4	714	28.6	黄褐	やや小	5.2	中の中	12.2	244	やや淡	中	中
カシマムギ	95.3	708	30.0	黄褐	中	5.7	中の上	12.0	253	中	中	中

注）畑ドリル播標肥栽培（麦茶品質は畑ドリル播多肥栽培、平成16～20年度）の試験成績による。

株

（左：「カシマゴール」、右：「カシマムギ」）

穂および粒

（左：「カシマゴール」、右：「カシマムギ」）

ばれいしょ農林６２号「コナユキ」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関

北海道立北見農業試験場
作物研究部　馬鈴しょ科

２．来歴

育成期間：平成 10 年～ 21 年　（11 年間）
交 配 親：紅丸×根育 39 号
旧系統名：北育 13 号

３．主要特性

・でん粉原料用で、でん粉品質が「紅丸」並に優れる。
・ジャガイモシストセンチュウに抵抗性を持つ。
・「コナユキ」の名称の由来は、粉雪のように美しいでん粉になってほしいことを願ったものである。

４．特性概要

（１）生育特性

・枯ちょう期は「コナフブキ」並の「中晩生」である（表 1)。
・「コナフブキ」に比べ、上いもの平均重が軽く、でん粉価はやや低いが、上いも数が多いため、でん粉重は同等である（表 1)。
・ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持つ（表 1)。
・休眠期間は「コナフブキ」より短い（表 1)。
・塊茎腐敗抵抗性は「コナフブキ」より弱い（表 1)。

（２）品質特性

・でん粉特性はリン含量、離水率が「コナフブキ」より低く、でん粉質は「紅丸」並で「コナフブキ」より優れる（表 2)。
・塊茎の肉色は「紫斑」であるが、でん粉の白度は「コナフブキ」並である（表 1、2)。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：北海道のでん粉原料用ばれいしょ栽培地帯
普及見込み：北海道で優良品種に採用（普及見込み面積　1,000ha）

６．品種登録出願状況

平成 22 年 7 月 13 日　出願
平成 22 年 9 月 15 日　出願公表

７．予算区分

指定試験事業（寒地北東部向け病害・線虫抵抗性、でん粉及び加工食品原料用のばれいしょ品種の育成）

系譜図

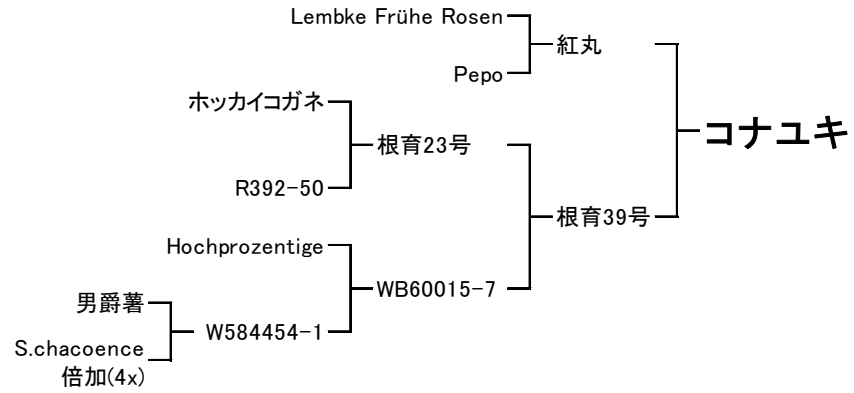


表１　生育特性（育成地、平成18～21年度）

品種・系統名	枯ちょう期（月.日）	早晩性	上いも数（個/株）	上いも平均重（g）	でん粉価（%）	でん粉重（kg/10a）	標準対比（%）
コナユキ	10.1	中晩生	14.9	79	20.9	1,015	101
コナフブキ	10.5	中晩生	10.1	111	21.6	1,004	100
紅丸	10.8	晩生	11.9	108	16.4	862	86

品種・系統名	病害虫抵抗性		塊茎の特性		
	ジャガイモシストセンチュウ	塊茎腐敗	皮色	肉色	休眠期間
コナユキ	強(*H1*)	弱	紫	紫斑	やや短
コナフブキ	弱(*h*)	(中)[1]	黄	白	やや長
紅丸	弱(*h*)	やや強	赤	白	やや短

1）( )内はばれいしょ種苗特性分類調査基準に基づく判定

表２　でん粉品質特性（育成地、平成17～20年度）

品種・系統名	リン含量（ppm）	離水率（%）	白度[1]	灰分[1]（%）	平均粒径（μm）
コナユキ	615	7.4	96.1	0.23	48.2
コナフブキ	730	26.2	96.1	0.29	48.0
紅丸	584	10.4	94.8	0.22	51.1

1）白度及び灰分はホクレン農総研調べ（平成16～18年度平均）

草　　姿

（上：「コナユキ」、下：「コナフブキ」）

塊　　茎

（左：「コナユキ」、右：「コナフブキ」）

ばれいしょ農林６３号「さんじゅう丸」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関
長崎県農林技術開発センター　農産園芸研究部門　馬鈴薯研究室

２．来歴
育成期間：平成10年～21年　（12年間）
交 配 親：長系107号×春あかり
旧系統名：西海30号

３．主要特性
・そうか病に「デジマ」、「ニシユタカ」より強い
・ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有する。
・大いも、多収である。
・いもの外観が優れる
・「さんじゅう丸」の名称由来は「病気に強い」、「収量が多い」、「外観がよい」の３つの優れた特徴がある事に由来する。

４．特性概要
（１）生育特性
・早晩性は「デジマ」よりやや早い中晩生である。
・春作の上いも重は「デジマ」より多収であり、上いもの平均重130ｇと大きい。
・そうか病に「デジマ」、「ニシユタカ」より強く、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、青枯病に中程度の抵抗性を有する。

（２）品質特性
・いもの形は卵形、目が浅く表皮のネットは微で外観は「ニシユタカ」より優れる
・肉質は中～やや粘質で、食味は「デジマ」よりやや劣るが「ニシユタカ」より優れる。
・でん粉価は「デジマ」、「ニシユタカ」より低い。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：九州地域
普及見込み：長崎県で認定品種に採用
（普及見込み面積　200ha）

６．品種登録出願状況
平成22年5月31日　出願
平成22年8月12日　出願公表

７．予算区分　指定試験事業
温暖地・暖地向け、病害・線虫抵抗性、高品質、多収のばれいしょ品種の育成

系譜図

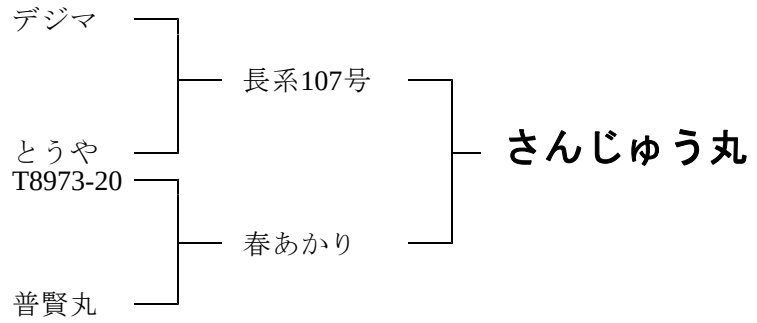


表１　生育特性

（育成地　平成14～21年度）

品種名	早晩性	上いも重 (kg/a)	上いもの平均重(g)	病虫害抵抗性 そうか病	シストセンチュウ	青枯病
さんじゅう丸	中晩生	425	131	中	抵抗性	中
デジマ	晩生	395	147	やや弱	感受性	やや弱
ニシユタカ	中晩生	437	144	弱	感受性	中

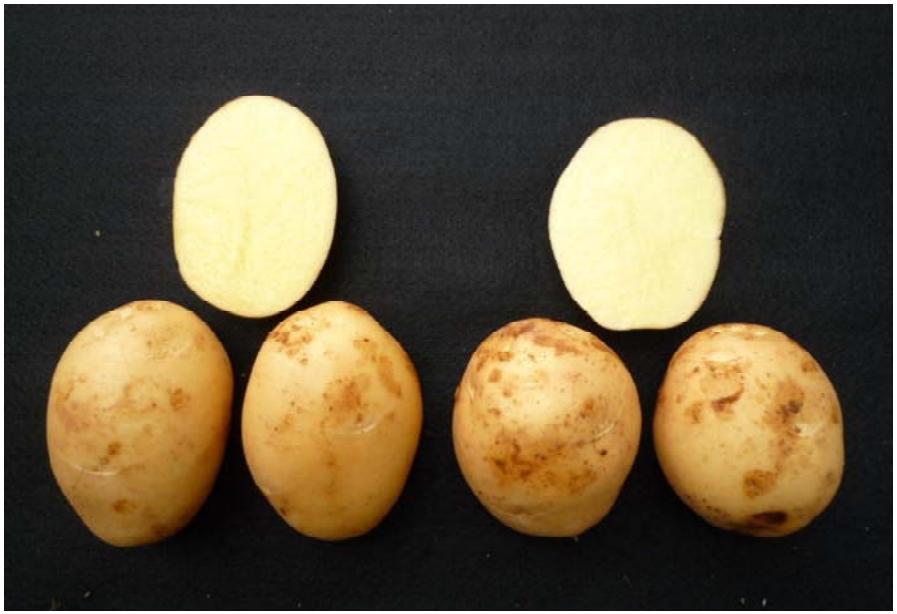
注）数値は春作の値

表２　品質特性

（育成地　平成14～21年度）

品種名	いもの形	目の深さ	表皮のネット	外観	肉質	食味	でん粉価(%)
さんじゅう丸	卵	浅	微	やや良～良	やや粘	中～やや良	9.4
デジマ	短卵	やや浅	微	中	中	やや良	10.9
ニシユタカ	短卵	中	中	中	中	やや否	11.0

（左：「さんじゅう丸」、右：「デジマ」）



（左：「さんじゅう丸」、右：「デジマ」）

だいず農林１４０号「ユキホマレＲ」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関

地方独立行政法人　北海道立総合研究機構　十勝農業試験場
研究部　豆類グループ　（農林水産省大豆育種指定試験地）

２．来歴

育成期間：平成 11 年～ 21 年　（11 年間）
交 配 親：十育 233 号/十系 871 号//十育 233 号///ユキホマレ× 2
旧系統名：「十育 247 号」

３．主要特性

・「ユキホマレ」にダイズシストセンチュウレース 1 抵抗性を導入した品種である。
・品種名称の由来：「ユキホマレ」にダイズシストレース 1 抵抗性（Resistance）を導入した品種である。

４．特性概要

（１）生育特性

・ダイズシストセンチュウレース 1・3 抵抗性である。
・成熟期は「ユキホマレ」並の“やや早”、収量は「ユキホマレ」並で、センチュウ抵抗性以外の生育特性は「ユキホマレ」と同じである。

（２）品質特性

・子実成分は「ユキホマレ」並で、加工適性は「ユキホマレ」と実質的に同等である。
・「ユキホマレ」と同様に煮豆、納豆、味噌、豆乳に適する。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：北海道（北海道大豆栽培地帯区分のうちⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの地域およびこれに準ずる地帯のうち、「ユキホマレ」等のダイズシストセンチュウレース 3 抵抗性品種にセンチュウ被害が発生している地域）
普及見込み：北海道優良品種に採用（普及見込み面積　300ha）

６．品種登録出願状況

平成22年 7月 6日　出願
平成22年10月28日　出願公表

７．予算区分

指定試験　（平成 11、16 ～ 21 年）
イネゲノムプロジェクト（平成 12 ～ 13 年）
DNA マーカープロジェクト（平成 14 ～ 15 年）

系譜図

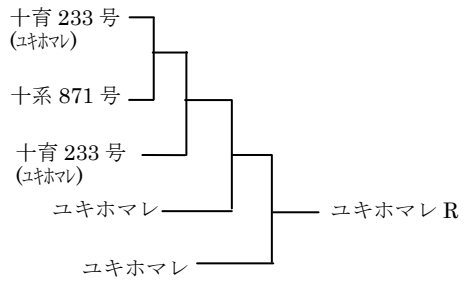


表１　生育特性（育成地、平成19～21年）

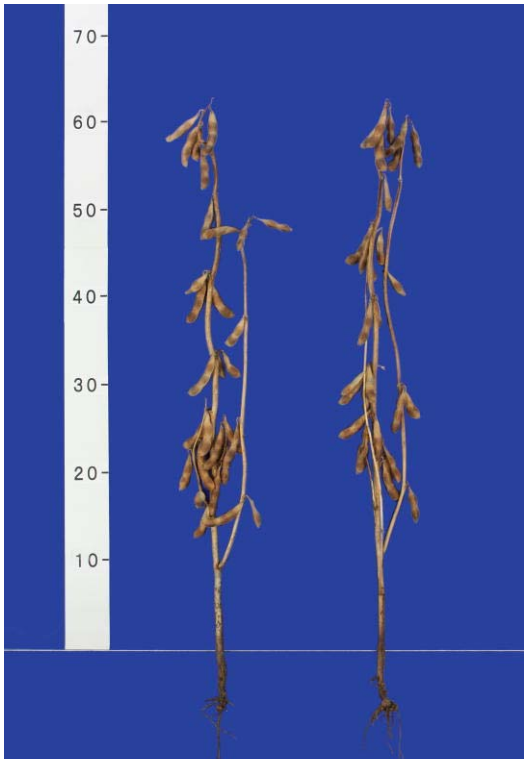
品種名	開花期（月日）	成熟期（月日）	倒伏程度	主茎長（cm）	主茎節数	分枝数（本/株）	子実重（kg/a）	対標準比(%)	百粒重（g）
ユキホマレR	**7.22**	**9.26**	**無**	**55**	**9.7**	**4.3**	**33.2**	**98**	**34.4**
ユキホマレ	7.22	9.26	無	57	9.9	4.6	33.9	100	36.0
トヨコマチ	7.21	9.26	微	64	10.5	5.4	33.8	101	36.9

品種名	病害虫抵抗性		低温抵抗性		低温着色抵抗性		裂莢の難易	最下着莢節位高
	ｼｽﾄｾﾝﾁｭｳ ﾚｰｽ１／ﾚｰｽ３	わい化病	開花期	生育期	臍	臍周辺		
ユキホマレR	**強／強**	**弱**	**やや強**	**強**	**弱**	**強**	**難**	**中**
ユキホマレ	弱／強	弱	やや強	強	弱	強	難	中
トヨコマチ	弱／強	弱	やや強	やや強	弱	強	易	高

表２　品質特性（育成地、平成19～21年）

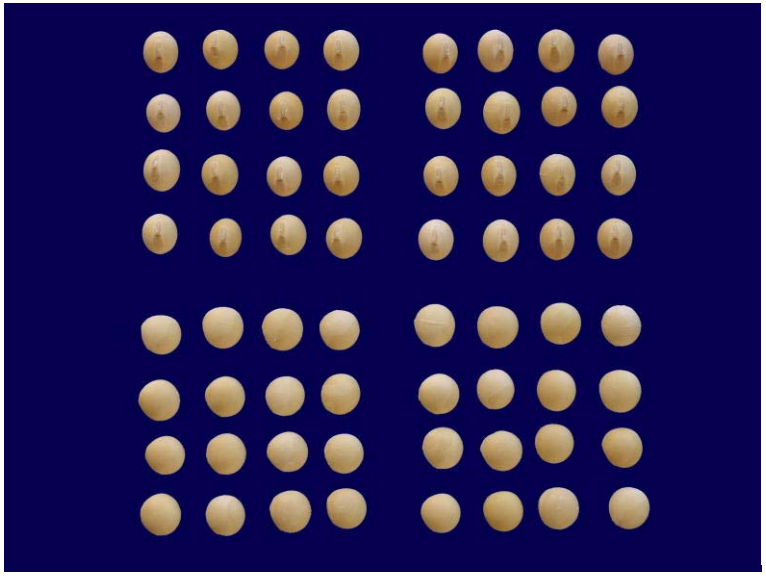
品種名	子実品質（検査等級）	粗蛋白含有率(%)	粗脂肪含有率(%)	遊離型全糖含有率(%)	加工適性				
					豆腐	煮豆	味噌	納豆	豆乳
ユキホマレR	**3上**	**43.5**	**18.6**	**22.6**	**可**	**適**	**適**	**適**	**適**
ユキホマレ	3上	42.7	18.1	23.5	可	適	適	適	適
トヨコマチ	合格	43.9	17.7	22.9	可	適	適	適	適

草　　姿



（左：「ユキホマレ R」、右：「ユキホマレ」）

子　　実



（左：「ユキホマレ R」、右：「ユキホマレ」）

だいず農林１４１号「シュウレイ」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関
長野県野菜花き試験場
畑作育種部（大豆育種指定試験地）

２．来歴
育成期間：平成８年～２１年　（１４年間）
交 配 親：東山１８１号×東山系Ｔ６１３
旧系統名：東山２１３号

３．主要特性
・大粒で、しわ粒の発生が少なく品質に優れる。
・ダイズモザイク病と紫斑病に強く、褐斑粒と紫斑粒の発生が少ない。
・子実の蛋白質含有率が高い。
・「立派で美しく、秀麗な大豆である」ことから「シュウレイ」と命名。

４．特性概要
（１）生育特性
・「エンレイ」よりやや成熟期が遅く、「エンレイ」よりやや多収である。
・「エンレイ」より倒伏が少ない。
・ダイズシストセンチュウに弱く、黒根腐病に十分な抵抗性を持たない。

（２）品質特性
・子実は「エンレイ」より大きく、良質である。
・しわ粒（ちりめんじわ）の発生が「エンレイ」より少ない。
・豆腐、煮豆、味噌加工に適する。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：東北南部、北陸、関東北部、東山地域
普及見込み：富山県で奨励品種に採用予定
（24 年度普及見込み面積　200ha）

６．品種登録出願状況
平成２２年３月２６日　出願
平成２２年７月２１日　出願公表

７．予算区分
農林水産省委託事業（指定試験事業）
　寒冷地南部及び温暖地向け、高品質、病虫害複合抵抗性の大豆品種の育成

系譜図

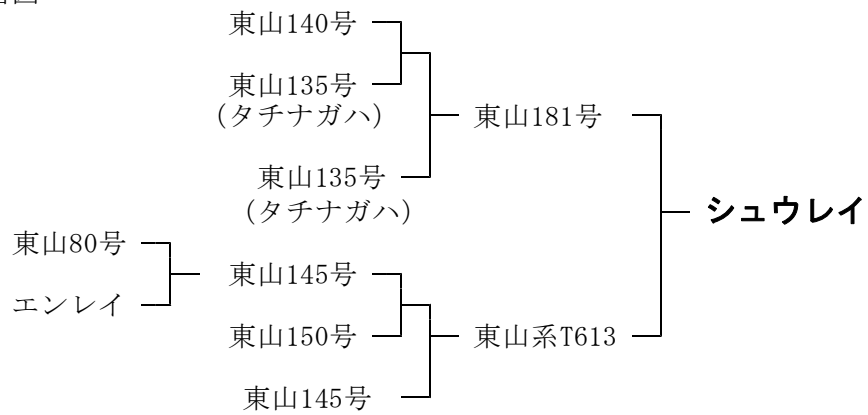


表１　生育特性　（長野県野菜花き試験場、平成18～21年、標準栽培）

品種名 系統名	開花期	成熟期	主茎長	最下着莢節位高	生育中の障害 倒伏	蔓化	ウイルス	青立ち	収量 子実重 (kg/a)	標準比 (%)
	(月日)									
シュウレイ	7.28	10.08	70	20	微	微	無	微	35.7	111
エンレイ	7.27	10.03	75	18	少	少	微	微	32.3	100

表２　品質特性　（長野県野菜花き試験場、平成18～21年、標準栽培）

品種名 系統名	障害粒程度 紫斑	褐斑	裂皮	しわ	粒形	子実の色 種皮	臍	子葉	品質	百粒重（g）	子実成分(%) 蛋白質	脂肪	全糖
シュウレイ	無	無	微	微	扁球	黄	黄	黄	中上	39.0	44.2	19.5	20.5
エンレイ	無	少	微	少	扁球	黄	黄	黄	中中	33.1	45.2	19.1	21.3

表３　病虫害抵抗性、機械収穫適性および加工適性

品種名 系統名	病虫害抵抗性 ﾀﾞｲｽﾞﾓｻﾞｲｸ病	ﾀﾞｲｽﾞｼｽﾄｾﾝﾁｭｳ	黒根腐病	紫斑病	機械収穫適性 最下着莢節位高	耐倒伏性	裂莢性	加工適性 豆腐	煮豆	味噌
シュウレイ	強	弱	やや弱	やや強	中	強	やや易	適	適	適
エンレイ	中	弱	弱	中	中	中	易	適	可	可

草　　姿

（左：「エンレイ」、右：「シュウレイ」）

子　　実

（左：「エンレイ」、右：「シュウレイ」）

あずき農林１８号「きたあすか」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関

地方独立行政法人　北海道立総合研究機構
農業研究本部　十勝農業試験場　豆類グループ

２．来歴

育成期間：平成 10 年～ 21 年（12 年間）
交 配 親：十育 137 号×十育 140 号（しゅまり）
旧系統名：十育 155 号

３．主要特性

・「エリモショウズ」に比べ多収である。
・粒色が明るく、粒大が大きく、登熟期間が温暖な道央・道南では粒色が濃くなりにくく、小粒化による規格内歩留まりが少ない。
・落葉病（レース１）抵抗性、茎疫病（レース１、３）抵抗性、萎凋病抵抗性である。
・品種名の「きたあすか」は、北海道の大地と、広く普及して欲しいという願いを飛翔する鳥をイメージする“飛鳥（あすか）”に込め命名。

４．特性概要

（１）生育特性

・「エリモショウズ」と比べ、成熟期はほぼ同程度、主茎長は長い。
・子実重は「エリモショウズ」に比べ多く、普通小豆規格子実重はかなり多い。
・「エリモショウズ」に比べ病害抵抗性が強く、落葉病抵抗性、萎凋病抵抗性は“強”、茎疫病抵抗性は“かなり強”である。
・低温抵抗性は「エリモショウズ」に比べやや劣る“やや弱”である。

（２）品質特性

・百粒重は「エリモショウズ」に比べ重い。
・種皮色は「エリモショウズ」と同じ“淡赤”であるが、やや淡い。
・種皮歩合は低く、製品試作試験の結果では、加工適性は「エリモショウズ」と同等～やや優る。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：道央以南における早・中生種栽培地帯、中生種栽培地帯、中・晩生種栽培地帯
普及見込み：北海道で優良品種に採用（許諾件数１件）
（普及見込み面積　3,600ha）

６．品種登録出願状況

平成２２年　７月２０日　出願
平成２２年　９月１５日　出願公表

７．予算区分　　農林水産省委託事業指定試験事業等

系譜図

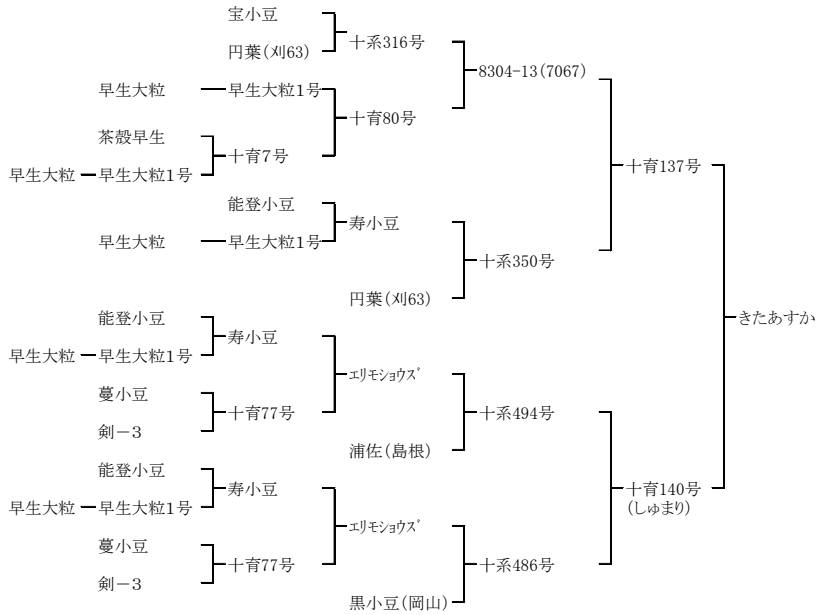


表１　生育特性　　（中央農試、上川農試、道南農試 H18~21）

品種名	生態型	成熟期（月日）	主茎長（cm）	主茎節数	分枝数（/株）	子実重（kg/10a）	子実重対比（%）	普通小豆規格 子実重（kg/10a）	普通小豆規格 子実重対比（%）	病害抵抗性 落葉病	病害抵抗性 茎疫病	病害抵抗性 萎凋病	低温抵抗性
きたあすか	夏小豆型	9.8	71	11.9	3.3	334	108	325	126	強	かなり強	強	やや弱
ｴﾘﾓｼｮｳｽﾞ	夏小豆型	9.8	59	12.5	3.9	309	100	259	100	弱	弱	弱	中
しゅまり	夏小豆型	9.8	61	12.2	4.3	298	96	－	－	強	かなり強	強	弱

※子実重：粗原子実重。普通小豆規格子実重：粒度4.9㎜以上。

表２　品質特性

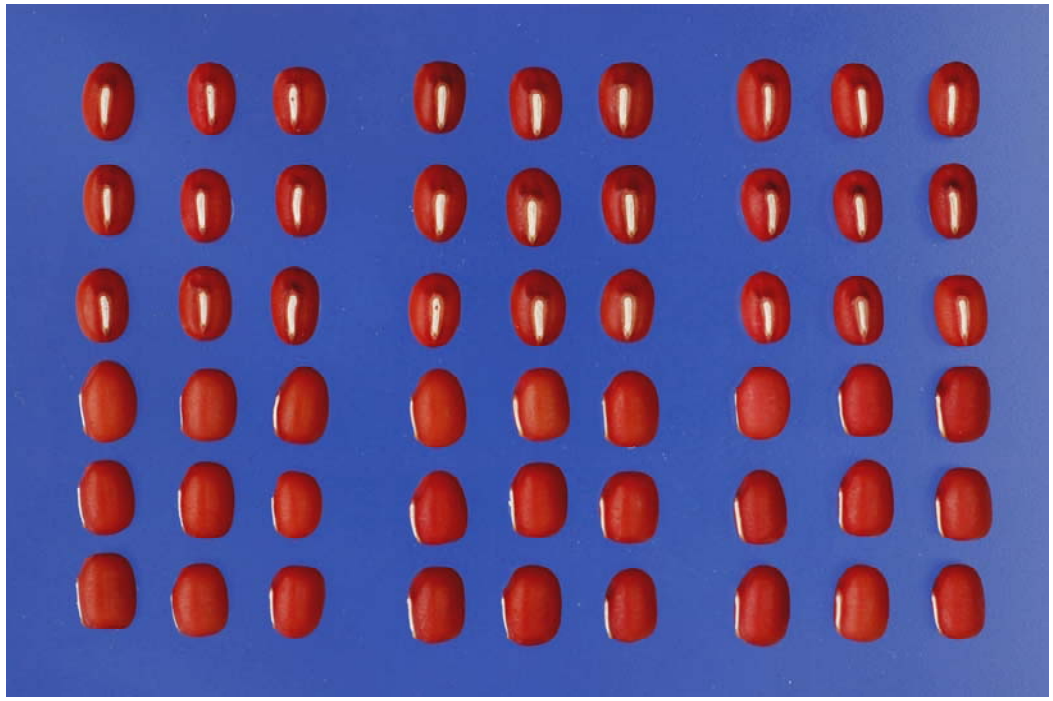
品種名	百粒重（g）	品質（等級）	種皮色 L*	種皮色 a*	種皮色 b*	子実の形状	種皮色	種皮歩合	製品試作試験 粒あん 香り	粒あん 舌触り	粒あん 皮の硬さ	粒あん 風味	粒あん 総合	こしあん 香り	こしあん 舌触り	こしあん 風味	こしあん 総合
きたあすか	15.8	3上	40.7	11.1	5.4	円筒	淡赤	低	3.5	3.2	3.3	3.3	3.6	3.0	2.5	3.2	2.8
ｴﾘﾓｼｮｳｽﾞ	12.9	3上	39.9	10.6	4.7	円筒	淡赤	中	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
しゅまり	12.3	3上	－	－	－	円筒	淡赤	中	－	－	－	－	－	－	－	－	－

※製品試作試験：H19 ～21年道央産「きたあすか」と「エリモショウズ」を用い、粒あん4社、こしあん5社で比較。
「ｴﾘﾓｼｮｳｽﾞ」を3（中）とし、5（優る）、4（やや優る）、3（中）、2（やや劣る）、1（劣る）とし、各項目で平均。

草　　姿

（左：「ｴﾘﾓｼｮｳｽﾞ」、中央「きたあすか」、右：「しゅまり」）

子　　実



（左：「ｴﾘﾓｼｮｳｽﾞ」、中央「きたあすか」、右：「しゅまり」）

さとうきび農林２８号「Ni28」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関
沖縄県農業研究センター作物班
（農林水産省さとうきび育種指定試験地）

２．来歴
育成期間：平成7年～22年（16年間）
交 配 親：RK87-81×F172
旧系統名：RK96-6049

３．主要特性
・南大東島において、「F161」よりも多収である。
・早熟で甘蔗糖度が高い。
・黒穂病抵抗性が“極強”である。
・風折抵抗性が強い。

４．特性概要
（１）生育特性
・「F161」よりも萌芽性が良く、株出しでの茎数が多い。
・特に2～3回の多回株出しで、「F161」よりも収量が多い。
（２）品質特性
・早期から糖度が高く、慣行の収穫時期における糖度、純糖率、可製糖率は、安定して「F161」よりも高い。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：南西諸島
普及見込み：沖縄県南大東島
（沖縄県で南大東島向けの奨励品種に採用、普及見込み面積　200ha）

６．品種登録出願状況
平成２２年１１月２４日　出願

７．予算区分
農林水産省指定試験事業（さとうきび育種）
農林水産省委託事業（加工プロ3系）

系譜図

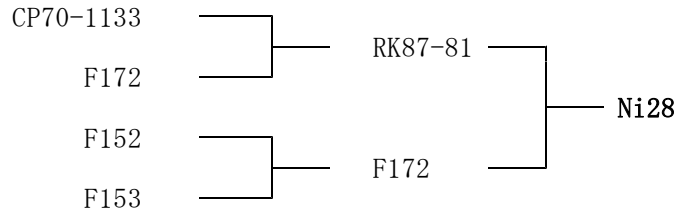


表１　生育特性（南大東島）

品種名	原料茎長(cm)		原料茎数(本/a)		原料茎重(kg/a)		黒穂病＊	登熟
	春植え	株出し	春植え	株出し	春植え	株出し	抵抗性	
Ni28	175	210	797	937	762	1028	極強	早
F161	198	212	951	808	951	1020	強	中

注）沖縄県農業研究センター奨励品種決定調査現地適応性検定試験（南大東島、春植えは平成17年～20年の4作平均、株出しは平成18～20年の3作平均、いずれも1月または2月の収穫）での成績。黒穂病抵抗性は特性検定試験における成績。

表２　品質特性（南大東島）

品種名	蔗汁ﾌﾞﾘｯｸｽ (%)	蔗汁糖度 (%)	純糖率 (%)	繊維分 (%)	甘蔗糖度 (%)	可製糖率 (%)	可製糖量 (kg/a)	
							春植え	株出し
Ni28	19.4	17.7	91.3	11.8	14.8	13.7	105	133
F161	17.8	15.9	88.9	13.9	13.1	11.9	114	126

注）沖縄県農業研究センター奨励品種決定調査現地適応性検定試験（南大東島、春植えは平成17年～20年の4作平均、株出しは平成18～20年の3作平均、いずれも1月または2月の収穫）での成績。可製糖量以外は春植えにおける試験成績。

表３　南大東島における春植え～多回株出しにおける収穫調査結果

品種名	作型	原料茎数 (本/a)	原料茎重 (kg/a)	甘蔗糖度 (%)	可製糖量 (kg/a)
Ni28	春植え	797(84)	762(80)	14.8(113)	105(92)
	株出し	937(116)	1028(101)	14.5(104)	133(106)
	株出し2回目	1044(121)	1272(132)	15.1(102)	177(136)
	株出し3回目	920(139)	896(128)	17.5(110)	146(147)
	平均	925(115)	990(110)	15.5(107)	140(120)

注）() 内の数値は標準品種「F161」に対する比率を示す。春植えは平成17年～20年の4作、株出しは平成18～20年の3作、株出し2回目は平成19～20年の2作、株出し3回目は平成20年の1作、いずれも1月または2月の収穫）での成績。

草姿

左：「F161」、中央：「Ni28（旧系統名：RK96-6049)」、右：「Ni9」

脱葉茎

左：「F161」、中央：「Ni28（旧系統名：RK96-6049）」、右：「Ni9」

さとうきび農林２９号「Ni29」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関

沖縄県農業研究センター作物班
（農林水産省さとうきび育種指定試験地）

２．来歴

育成期間：平成8年～22年（15年間）
交 配 親：RK87-81×F172
旧系統名：RK97-7020

３．主要特性

・夏植えとその株出しの早期（11月）収穫において、
「F161」よりも　　甘蔗糖度が高く、可製糖量が多い。
・春植え収穫後の株出しで「F161」よりも多収である。
・脱葉が容易で、耐倒伏性に優れる。。

４．特性概要

（１）生育特性
・「F161」よりも早熟で、早い時期から糖度が高い。
・夏植えとその株出しの早期収穫で、「F161」よりも高糖多収である。
（２）品質特性
・早期から糖度が高く、慣行の収穫時期、早期（11月）収穫のいずれにおいても、糖度、純糖率、可製糖率は、安定して「F161」よりも高い。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：南西諸島
普及見込み：沖縄県南大東島
（沖縄県で南大東島向けの奨励品種に採用、普及見込み面積　100ha）

６．品種登録出願状況

平成２２年１１月２４日　出願

７．予算区分

農林水産省指定試験事業（さとうきび育種）
農林水産省委託事業（加工プロ3系）

系譜図

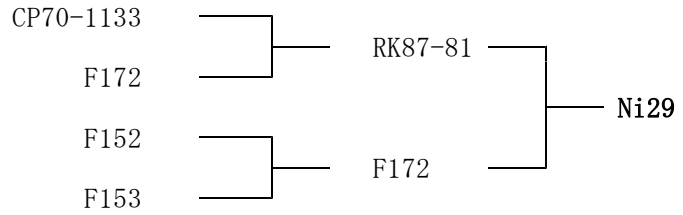


表１　生育特性（南大東島）

品種名	原料茎長(cm)		原料茎数(本/a)		原料茎重(kg/a)		黒穂病*	登熟
	春植え	株出し	春植え	株出し	春植え	株出し	抵抗性	
Ni29	175	209	853	850	858	1002	中	早
F161	206	192	968	746	988	846	強	中

注）沖縄県農業研究センター奨励品種決定調査現地適応性検定試験（南大東島、春植えは平成17年､19～20年の3作、株出しは平成18､20年の2作、いずれも1月または2月の収穫で平均）での成績。黒穂病抵抗性は特性検定試験における成績。

表２　品質特性（南大東島）

品種名	蔗汁ﾌﾞﾘｯｸｽ (%)	蔗汁糖度 (%)	純糖率 (%)	繊維分 (%)	甘蔗糖度 (%)	可製糖率 (%)	可製糖量(kg/a)	
							春植え	株出し
Ni29	19.2	17.2	89.5	13.5	14.4	13.1	115	132
F161	18.1	16.1	88.7	14.1	13.2	12.0	120	111

注）沖縄県農業研究センター奨励品種決定調査現地適応性検定試験（南大東島、春植えは平成17年､19～20年の3作、株出しは平成18､20年の2作、いずれも1月または2月の収穫で平均）での成績。黒穂病抵抗性は特性検定試験における成績。

表３　「Ni29」の夏植え型栽培による早期収穫の調査結果

試験地	作型	原料茎数 (本/a)	原料茎重 (kg/a)	甘蔗糖度 (%)	可製糖 (kg/a)
育成地	新植-11月収穫	896(119)	1139(119	15.0(104	154(129
	同上株出し-11月収	913(123)	1033(146	15.3(112	143(163
南大東島	新植-11月収穫	997(119)	1020(127	13.0(107	118(138
	同上株出し-11月収	852(97)	946(126	12.5(116	102(150

注）() 内の数値は、標準品種（育成地では「NiF8」、南大東島では「F161」に対する比率を示す。育成地の新植は平成17年～20年の4作、株出しは平成18～20年の3作、南大東島の新植は平成18～20年の3作、株出しは平成19～20年の2作、いずれも平均）での成績。

草姿

左：「F161」、中央：「Ni29（旧系統名：RK97-7020)」、右：「Ni9」

脱葉茎

左：「F161」、中央：「Ni29（旧系統名：RK97-7020）」、右：「Ni9」

茶農林５５号「さえあかり」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
野菜茶業研究所茶育種グループ

２．来歴

育成期間：平成１年～２１年　（２１年間）
交 配 親：Ｚ１×さえみどり
旧系統名：枕崎３０号

３．主要特性

・一番茶および夏茶の品質が優れ、炭疽病と輪斑病に抵抗性を有する煎茶用のやや早生品種である。
・「さえあかり」の名称の由来は、「さえみどり」の特徴を引き継いだ、明るい色沢、水色を表している。また、夏の明るい陽射しの下でも「さえみどり」にまさる高い品質となる品種特性も同時に表している。

４．特性概要

（１）生育特性

・早晩性は、「やぶきた」と「さえみどり」の中間のやや早生である。
・樹姿は、やや開帳性で、樹勢は強く、挿し木発根性も良好。
・輪斑病抵抗性は強、炭疽病抵抗性はやや強である。
・耐寒性は、赤枯れ抵抗性が「やぶきた」よりやや弱く、裂傷型凍害抵抗性は「やぶきた」と同程度である。
・収量は各茶期を通して「やぶきた」と「さえみどり」よりも多い。

（２）品質特性

・一番茶品質は「さえみどり」と同程度で「やぶきた」より優れる。
・二番茶と三番茶品質は「さえみどり」よりも優れる。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：静岡県以南の地域
普及見込み：許諾件数７件　（普及見込み面積　2,000ha）

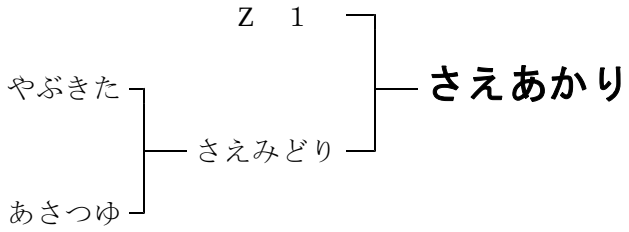
６．品種登録出願状況

平成 22 年 4 月 8 日　出願
平成 22 年 7 月 21 日　出願公表

７．予算区分

「運営費交付金」214-l ：生物機能等の利用による茶の病害虫防除技術の開発及び抵抗性系統の開発

系譜図



「表１　生育特性」（枕崎茶業研究拠点：2006 ～ 2009 年、鹿児島県：2002 ～ 2006 年）

品種名	早晩性	一番茶		生葉収量(kg/10a)			耐寒性		病害抵抗性		樹姿	樹勢
		萌芽期	摘採期	一番茶	二番茶	三番茶	赤枯れ抵抗性	裂傷型凍害抵抗性	炭疽病	輪斑病		
さえあかり	やや早生	3/17	4/14	384	406	339	中	中	やや強	強	やや開張	強
さえみどり	早生	3/12	4/10	226	256	197	やや弱	ー	中	弱	中間	やや弱
やぶきた	中生	3/22	4/18	252	176	148	やや強	中	弱	弱	やや直立	やや弱

１）数値は2006～2009年の平均値を示す.
２）赤枯れ抵抗性は1月中旬に切り枝を-10～-14℃で2時間処理し、2日後に目視で判定した.
３）裂傷型凍害抵抗性は特性検定場所（鹿児島県、2002～2006年）における総合判定結果を示す.
「さえみどり」はデータ無し

「表２　品質特性」（枕崎茶業研究拠点：2006 ～ 2009 年）

品種名	製茶品質(40点満点)		
	一番茶	二番茶	三番茶
さえあかり	29.3	27.7	28.0
さえみどり	29.8	24.8	26.7
やぶきた	25.7	21.5	21.0

１）数値は2006～2009年の平均値を示す.
２）製茶品質は各茶期ごとに審査し、点数は色沢、香気、水色、滋味の各項目10点満点の合計値である.

一番茶新芽

（上:「さえあかり」、下:「さえみどり」）

一番茶摘採期の園相

（上:「さえあかり」、下:「さえみどり」）

とうがらし農林台４号「台パワー」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
野菜茶業研究所 野菜育種研究チーム

２．来歴
育成期間：平成９年～１９年　（１１年間）
交 配 親：（三重みどり×ＳＣＭ３３４）×ベルマサリ
旧系統名：トウガラシ安濃４号

３．主要特性
・青枯病と疫病に強度の複合抵抗性を有し、モザイク病（PMMoV($P_{1.2}$)）に対しても抵抗性を有する台木用品種である。
・「台パワー」の名称の由来は、複数の病害に力（パワー）を発揮する台木用品種であることを表現したものである。

４．特性概要
（１）生育特性
・青枯病と疫病に強度の複合抵抗性を有し、モザイク病（PMMoV($P_{1.2}$)）に対しても抵抗性を有する。
・「ベルマサリ」に比べると、開花始期がやや遅く、第１分枝の節位が高く、草丈が高い。

（２）品質特性
・果形は中長形で、未熟果色は緑、完熟果色は赤である。
・「ベルマサリ」と比べ果実が小さい。
・接ぎ木のし易さは「ベルマサリ」と同程度である。
・接ぎ木植物体の総収量および上物収量は「ベルマサリ」と比較すると、ほぼ同等またはやや劣るものの、上物率は同等である。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：日本国内の夏秋ピーマンおよびトウガラシ類栽培地域
普及面積(平成 22 年実績)：京都府１１ ha、山形県３ ha、他

６．品種登録出願状況
平成２０年５月２９日　出願
平成２０年８月　５日　出願公表

７．予算区分
・[運営費交付金]211-j：病虫害抵抗性、省力・機械化適性、良食味等を有する野菜品種の育成
・[委託費]：平成 17 年度「ブランド・ニッポン」実施課題：多様な地域特産品種に対応した栽培適応性の広いナス・トウガラシ類用台木品種及び系統の育成

系譜図

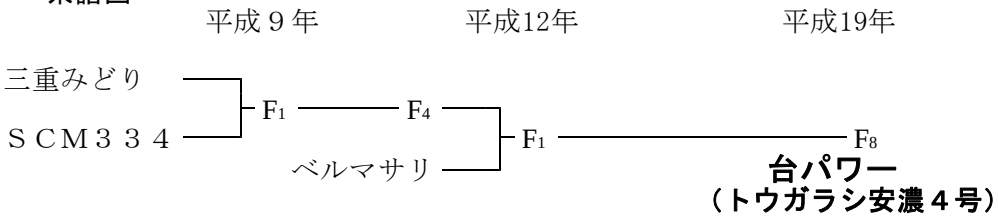


表１　「台パワー」の生育特性

（野菜茶業研究所　平成18年露地作）

品種・系統名	病害抵抗性							形態特性		
	疫病幼苗接種検定			青枯病汚染圃場検定			モザイク病抵抗性遺伝子の種類*	開花始期（日）	第1分枝まで葉数	草丈（cm）
	個体数	発病株率（%）	枯死株率（%）	個体数	発病株率（%）	枯死株率（%）				
台パワー	23	4	0	8	0	0	L^3	74	12.4	87.2
ベルマサリ	22	45	36	8	100	0	L^3	61	7.6	61.2
SCM334	22	0	0	8	100	100	－	－	－	－
三重みどり	21	100	100	8	88	13	－	－	－	－

* L^3はPMMoV($P_{1.2}$)に対して抵抗性を示す。

表２　「台パワー」の品質特性

（野菜茶業研究所　平成19年露地作）

品種・系統名	果実特性					収量性*				
	未熟果色	完熟果				接ぎ木**のし易さ	上物収量（kg/a）		総収量（kg/a）	上物率（%）
		果色	果形	果重（g）	果長（mm）		前期	全期		
台パワー	緑	赤	中長形	29.8	75.6	中	90	471	554	85.0
ベルマサリ	緑	赤	中長形	74.8	84.8	中	98	500	585	85.5

* 左欄の品種・系統を台木に用い、穂木を「京鈴」として、露地で栽培した。
** ピン接ぎ法

「台パワー」の草姿

疫病激発圃場での接ぎ木栽培
左：既存品種（「ベルマサリ」）台木、右：「台パワー」台木

うめ農林３号「露茜」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
果樹研究所ナシ・クリ・核果類研究チーム

２．来歴

育成期間：平成５年～19 年（14 年間）
交 配 親：笠原巴旦杏×養青梅
旧系統名：ウメ筑波 10 号

３．主要特性

・ニホンスモモとウメの雑種である。
・果実重は平均 57ｇ程度で大果である。
・果皮および果肉が鮮紅色に着色し、梅酒や梅ジュース加工品はきれいな紅色になる。

４．特性概要

（１）生育特性

・樹勢が弱く、樹冠の広がりは遅い。
・開花期は育成地で３月下旬であり、「南高」より 10 日あまり遅い。
・花芽の着生は多く、１つの花芽から 1～3 個の小花が発生し、花束状短果枝を形成する。
・花粉をわずかに有するが稔性はない。
・収穫期は育成地で７月中旬となり、「南高」より２週間程度遅い。

（２）品質特性

・果実重は 57ｇ程度で大果である。核は小さく、果肉が多い。
・果皮は全面が鮮紅色に、果肉も成熟に伴い鮮紅色に着色する。
・ヤニ果の発生はみられない。
・酸含量は 4g/100ml 程度で、「南高」よりも３割ほど少ない。
・梅酒や梅ジュースなどの飲料用原料に適しており、加工品はきれいな紅色になる。梅干し製品は、「南高」に較べて果肉がやや粗く、品質は劣る。

５．栽培適地及び普及見込み先

栽培適地：既存のうめ栽培地域
普及見込み先：茨城県、和歌山県、宮崎県
利用許諾業者数：42 業者（平成 22 年３月現在）
苗木販売実績：平成 20 年度（販売初年度）1033 本、平成 21 年度 6444 本

６．品種登録状況

平成 21 年２月 26 日　品種登録

７・予算区分

［運営費交付金］213-e 高収益な果実生産を可能とする高品質品種の育成と省力・安定生産技術の開発

系譜図等

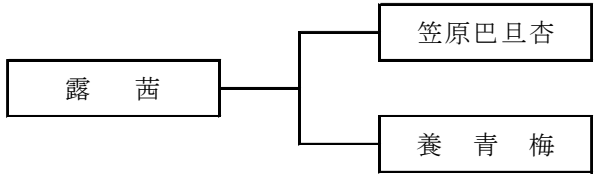


表1 「露茜」の樹性および果実特性　（2005年～2009年、果樹研究所）

品種	樹勢	開花盛期	花芽の着生	花芽あたりの小花の数	花粉の多少	花粉の稔性	収穫盛期
露　茜	弱	3/21	多	1～3	少	無	7/13
南　高	強	3/9	多	1	多	高	6/29

表1　続き

品種	果実重(g)	核の重さ(g)	果肉歩合(%)	果皮の着色	果肉の色	ヤニ果の発生程度	酸含量(g/100ml)	果肉の緻密さ
露　茜	57.2	1.96	96.3	多	紅	無	3.92	中
南　高	43.8	3.53	91.9	中	淡黄緑	無～微	5.62	やや密

写真１　「露茜」の結実状況

写真２　「露茜」の果実

写真３　「露茜」を原料
とした梅酒

カーネーション農林３号「花恋ルージュ」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
花き研究所新形質花き開発研究チーム

２．来歴

育成期間：平成 4 年～ 21 年　（18 年間）
交 配 親：ミラクルルージュ× 4AZ31-5
旧系統名：つくば４号

３．主要特性

・野生種 *Dianthus　capitatus* 由来の安定した萎凋細菌病抵抗性が最大の特徴。
・カーネーションの中で最も生産量が多い赤色大輪のスタンダードタイプ。
・萎凋細菌病による「枯れ」のリスクを軽減することができ、深紅の「可憐」な花をつけ、当所育成の「ミラクルルージュ」の後代に当たることから命名。

４．特性概要

（１）生育特性

・収穫開始日は｢フランセスコ｣に比べて遅く中晩生である。
・株当たりの切り花本数は｢フランセスコ｣より少なく、｢ノラ｣より多い。
・がく割れを発生しない。

（２）品質特性

・花径は 7.5cm 程度の大輪であり、スタンダードタイプの品種である。
・花色は濃橙赤色（JHS カラーチャート 0707）の単色花である。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：全国に適応。特に萎凋細菌病の被害が予想される暖地での栽培。温暖化に伴い需要の見込みが大きい。
普及見込み：普及見込み面積は、3 年後 10.5a、10 年後最大 10ha（赤色スタンダードカーネーションの 10 %シェア）を想定している（現在の許諾件数２件）。

６．品種登録出願状況

平成 22 年 2 月 17 日　出願
平成 22 年 4 月 22 日　出願公表

７．予算区分

［運営費交付金］221 k :花きの花色改変等新形質付与技術の開発

系譜図

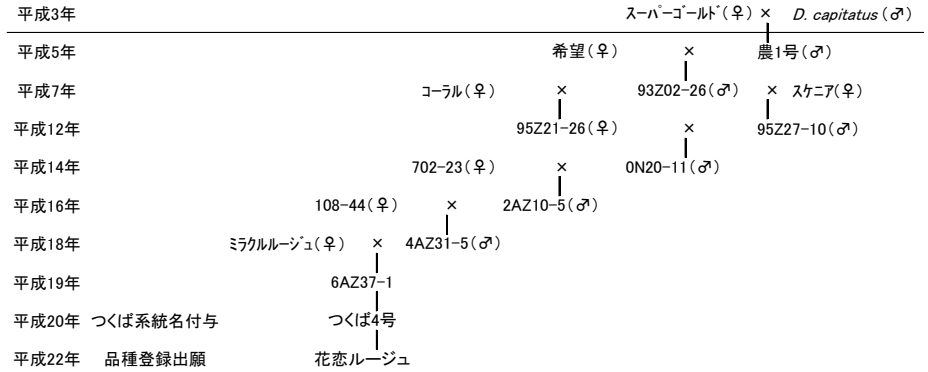


表1 ‘花恋ルージュ’の生育特性（育成地、平成20～21年）

品種名	収穫開始日（月/日）	開花日[1)]（月/日）	株当たり切り花本数	がく割れ率（%）	萎凋細菌病抵抗性
花恋ルージュ	12/15	1/14	4.5	0	強
フランセスコ	10/31	12/1	5.0	15.4	弱
ノラ	12/4	2/19	3.1	2.6	弱

[1)]全供試株の40～50%が開花した日

表2 ‘花恋ルージュ’の切り花品質特性（育成地、平成20～21年）

品種名	花色（JHSカラーチャートによる）	開花時草丈（cm）	花径（cm）	切り花重（g）	茎径（mm）	下垂度階級値
花恋ルージュ	0707　濃橙赤	97.3	7.5	22.0	4.1	2.7
フランセスコ	0706　鮮橙赤	102.6	7.6	20.2	4.1	3.1
ノラ	0402　淡ピンク	85.6	7.5	27.5	4.5	2.5

「花恋ルージュ」の花

抵抗性検定の様子（接種後 49 日目）

左：「ノラ」（97.1%）、中央：「花恋ルージュ」（7.1%）
右：「フランセスコ」（87.0%）
（）内の数値は 6 回の抵抗性検定における接種後 91 日目の平均発病率
発病率（%）＝枯死株数／検定株数× 100

ペレニアルライグラス農林８号「ヤツユメ」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関
山梨県酪農試験場（牧草育種指定試験地）
草地環境科

２．来歴
育成期間：昭和 60 年～平成 20 年　（24 年間）
交 配 親：育成した優良 20 栄養系
旧系統名：八ヶ岳 T-24 号

３．主要特性
・短草・多回刈り条件で収量性に優れ、放牧用として利用できる。
・ペレニアルライグラスとしては、越夏性に優れる。
・品種名称は、この品種の利用によって農家が夢を持てるようになることを願って命名した。

４．特性概要
（１）生育特性
・３年間合計乾物収量は、「ヤツユタカ」よりやや高い。
・季節別収量については、夏季は「ヤツユタカ」と同等で、春季と秋季は多収である。
・出穂始期は「ヤツユタカ」」より4日早く、「晩生の早」に属する。
・永続性と越夏性は、「ヤツユタカ」と同程度である。
・耐寒性と冬季の耐病性は、いずれも「フレンド」と同程度である。

（２）品質特性
・乾物分解率、ADF、NDF および粗蛋白質は「ヤツユタカ」と同程度である

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：本州以南の高冷地、準高冷地
普及見込み：山梨県で奨励品種に採用（平成 22 年採用）
（普及見込み面積　4,000ha）

６．品種登録出願状況
平成 21 年 3 月 30 日　出願
平成 21 年 5 月 28 日　出願公表

７．予算区分
農林水産省指定試験事業「寒冷地・温暖地向け病害抵抗性・安定多収のペレニアルライグラス品種の育成」

系譜図

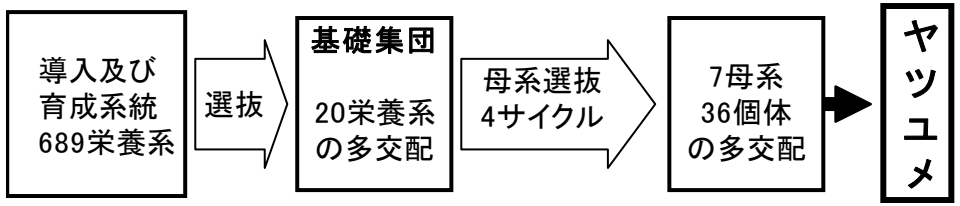


表1　生育特性（山梨酪試他10場所　平成17年～20年）

品種名	3年間合計収量		季節別収量（標比%）			出穂始期
	kg/a	標比%	春季	夏季	秋季	（月．日）
ヤツユメ	348.2	105	110	100	107	5.30
ヤツユタカ	337.3	100	100	100	100	6.3

3年間合計収量は、本州以南8場所の平均。標準品種比も、各試験場の標準比の平均。
出穂始期は、山梨酪試のデータ

表1　続き

品種名	永続性（年次収量比）		越夏性	耐寒性	耐病性
	3年目/1年目	（標比%）	評点[1)]		
ヤツユメ	91	(105)	4.7	中	中
ヤツユタカ	87	(100)	4.7	－	－
フレンド	－	－	－	中	中

[1)] １：極不良～９：極良

表2　品質特性（山梨酪試平成18年～20年）

品種名	乾物分解率（乾物中%）	ADF（乾物中%）	NDF（乾物中%）	粗蛋白質（乾物中%）
ヤツユメ	54.5	22.5	44.2	20.7
ヤツユタカ	53.2	23.1	44.9	20.7
フレンド	52.8	22.9	44.7	21.3

乾物分解率は、3年間21回の平均。その他は、1年目8回及び2年目2回の平均

出穂期の草姿

（左：「ヤツユメ」、右：「ヤツユタカ」）

利用 3 年目の越夏後の様子

（左：「ヤツユメ」、右：「ヤツユタカ」）

アカクローバ農林６号「北海１３号」（平成２３年３月２８日認定）

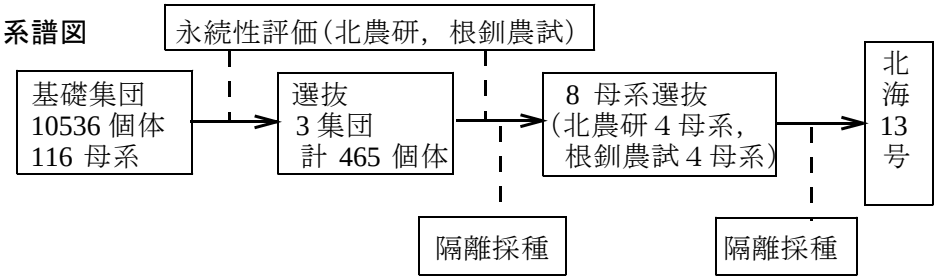
１．育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
　北海道農業研究センター寒地飼料作物育種研究チーム
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
　根釧農業試験場研究部

２．来歴

育成期間：平成３年～２１年　（１９年間）
交 配 親：北農研選抜４母系と根釧農試選抜４母系の計８母系
旧系統名：北海１３号

系譜図



３．主要特性

・永続性が高く、4，5年目でもアカクローバ収量を維持できる。
・オーチャードグラスおよび極早生チモシーと混播，採草利用する。
・アカクローバはイネ科牧草より緑が濃く，みどり（緑，リョク）が長く続き（悠，ユウ），永続性の高いことを意味する。

４．特性概要

（１）生育特性

・開花始日は6月20日と「ナツユウ」（標準品種）同日で早生である
・「ナツユウ」に比べ２番草の草丈、冠部被度が高く，競合力は強い。
・耐寒性や病害罹病程度は「ナツユウ」と同程度である。
・オーチャードグラス，極早生チモシーとの混播は総乾物収量とマメ科率はやや優れるから同程度であるが，アカクローバの後半収量と永続性が高く，混播適性は優れる。

（２）品質特性

・主要成分である粗蛋白質は「ナツユウ」と同程度である。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：北海道および北東北地域
普及見込み：北海道で奨励品種に採用
　　（普及見込み面積　30,000ha）

６．品種登録出願状況

平成 22 年 10 月 5 日　出願

７．予算区分

［運営費交付金］212-c2 大規模草地・飼料畑の活用のための高 TDN 飼料作物品種の育成
［委託費］平成 21 年度「えさプロ」実施課題：単播栽培や簡易更新など新たな栽培体系に適したマメ科牧草品種の育成」

表1　「北海１３号」の生育特性と品質特性　（平成18年～21年，北農研ほか8場所）

	北海１３号	ナツユウ	評価基準	備考
開花始日（１番草）	20	20	６月の日	北農研単播4年平均
草丈（２番草）	62	58	cm	２～５年目全場所平均
冠部被度（２番草）	54	49	%	２，３年目21調査平均
最終年の個体密度	9.3	7.5	株数/㎡	11調査平均
秋の被度（３番草後）	25	20	%	調査最終年全場所平均
耐寒性	やや強	やや強	総合判定	根釧農試耐寒性特性検定試験
菌核病罹病程度	2.4	2.4	1:無・軽微―9:甚	３調査平均
粗蛋白質	18.7	18.7	乾物中%	２年目1～3番草平均

表２　「北海１３号」の混播時の生育特性　２，３年目（前半）と４，５年目（後半）のアカクローバ乾物収量　(kg/a)および後半収量の前半収量に比率　（平成18年～21年，北農研ほか３場所）

	オーチャードグラス			極早生チモシー		
品種･系統	前半	後半	後/前%	前半	後半	後/前%
北海13号	68　(123)	26　(119)	34	78　(112)	29　(135)	38
ナツユウ	55	22	30	70	22	31

(　)内はナツユウに対比%、後/前%は後半収量の前半収量比

表３　「北海１３号」の混播時の生育特性　合計乾物収量(kg/a)とマメ科率（平成18年～21年，北農研ほか３場所）

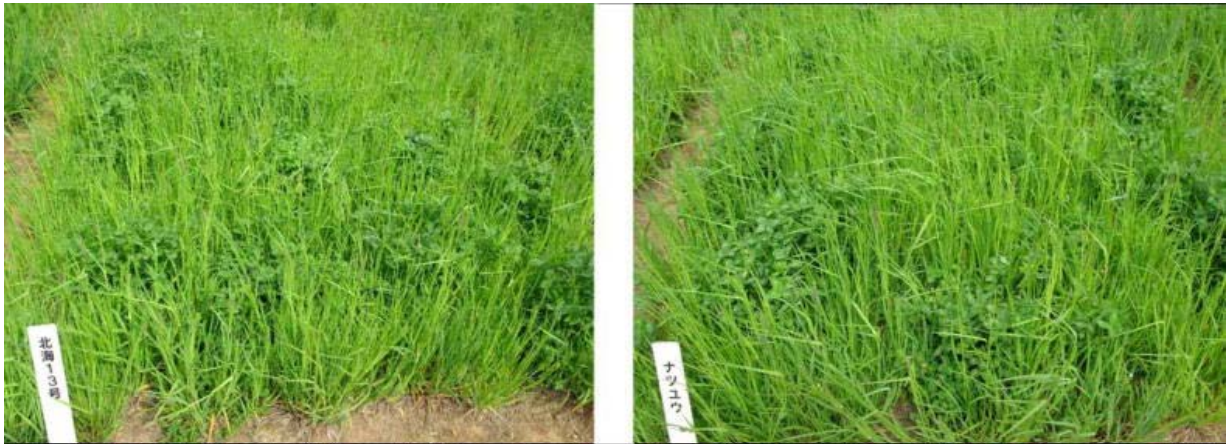
品種･系統	オーチャードグラス	極早生チモシー
北海13号	348　(25)	296　(36)
ナツユウ	347　(21)	290　(32)

(　)内は合計乾物収量に対するアカクローバの割合，マメ科率%

草　　姿　（北海道農業研究センター 2009 年 6 月 21 日撮影）

（左：「北海 13 号」、右：「ナツユウ」）

オーチャードグラス「ハルジマン」との混播（北海道農業研究センター 2009 年 6 月 4 日撮影）



（左：「北海 13 号」、右：「ナツユウ」）

とうもろこし農林交６８号「タカネフドウ」（平成２３年３月２８日認定）

１．育成機関

長野県野菜花き試験場
畑作育種部　とうもろこし育種指定試験地

２．来歴

育成期間：平成１５年～２１年　（７年間）
交 配 親：Ｎａ７１×ＣＨＵ６８（一代雑種）
旧系統名：長交Ｃ９８０号

３．主要特性

・耐倒伏性は「強」で、「KD777」および「32K61」よりやや強い。
・乾物収量は「KD777」および「32K61」より８～９％高い。
・品種名は「高嶺不動」を意味し、高標高地である長野県で育成され、耐倒伏性が強いことを示す。

４．特性概要

（１）生育特性

・中生のサイレージ用品種で、初期生育に優れ、絹糸抽出期は中晩生「KD777」より２日早く、中生の「32K61」より１日遅い。
・長稈でややアプライトな草姿である。
・ごま葉枯病およびすす紋病抵抗性はいずれも「強」である。

（２）品質特性

・茎葉 TDN 含量はほぼ「KD777」並で、「32K61」より高い。
・乾雌穂重割合は「KD777」並で、「32K61」より低い。
・ホールクロップ TDN 含量は「KD777」および「32K61」並である。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：東北南部から関東・東山地域
普及見込み：長野県で奨励品種に採用（普及見込み面積 長野県：400ha）
（全　国：3,000ha）

６．品種登録出願状況

平成２２年３月２６日　出願
平成２２年６月１４日　出願公表

７．予算区分

農林水産省委託事業（指定試験事業）、課題名：寒冷地・温暖地東部向け耐倒伏性、病害抵抗性、サイレージ用、多収のとうもろこし品種の育成

系譜図

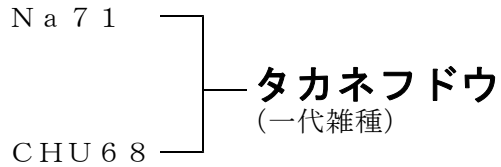


表１　生育特性[1)]

品種名	初期生育 1～9[2)]	絹糸抽出期 月日	稈長 cm	着雌穂高 cm	ごま葉枯病 1～9[3)]	すす紋病 1～9[3)]	倒伏個体率 %[4)]	乾物収量[5)] kg/a
ﾀｶﾈﾌﾄﾞｳ	7.9	7/24	300	157	2.1	1.2	3.8	224.9(108)
KD777	6.3	7/26	275	137	1.9	1.7	9.8	209.2(100)
32K61	7.0	7/23	290	135	3.3	3.1	7.0	208.0(99)
l.s.d.0.05	0.5	0.5	5	5	0.7	n.s.	n.s.	7.8

1)東北から関東・東山における平成17～21年の6場所、のべ19試験の平均
2)1：ごく不良～9：ごく良による評点。
3)1：無～9：甚による評点。病害の発生が見られた試験での平均
4)倒伏および折損の合計値で、発生が見られた試験での平均
5)（　）内は対「KD777」比

表２　品質特性[1)]

品種名	茎葉TDN含量[2)] %	雌穂TDN含量[3)] %	乾雌穂重割合 %	ﾎｰﾙｸﾛｯﾌﾟTDN含量[4)] %
ﾀｶﾈﾌﾄﾞｳ	46.7	86.2	47.5	65.4
KD777	47.5	85.1	45.4	64.6
32K61	42.9	85.3	51.6	64.8
l.s.d.0.05	2.7	0.3	1.8	n.s.

1)育成地における平成17～21年の平均
2)近赤外分析値により推定
3)雌穂中の子実重割合から推定
4)茎葉ＴＤＮ含量、雌穂ＴＤＮ含量および乾雌穂重割合から推定

草　　姿

（平成２１年８月　長野県野菜花き試験場）

雌　　穂

（平成２１年１１月　長野県野菜花き試験場）